

令和7年度病害虫発生予察情報 特殊報第2号

～ブドウのリーフロール病の初確認について～

令和8年1月29日

発表：福島県病害虫防除所

1 病害名：ブドウリーフロール病（ブドウ葉巻病）

2 病原：病原は未確認であるが、*Grapevine leafroll-associated virus* (GLRaV) が関係するとされている。

3 発生経過

令和7年11月上旬、福島県浜通りのブドウほ場で、葉に紅葉症状が見られ、葉縁が葉裏側に巻いている症状（葉巻症状）が認められた（図1）。

令和7年11月中旬に紅葉・葉巻症状を呈している葉を採取し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、PCR法により GLRaV-1、3 が検出されたため、本県未発生のブドウリーフロール病と判断した。

4 病徴

- (1) 品種による差はあるが、成葉が裏側に巻き、葉柄からほぼ直角に下向きとなる（図2）。また、葉の主脈の支脈部分に緑色を残して紅葉する（図3）。特に赤色品種、黒色品種では、晩夏から秋にかけて葉巻症状ともに紅葉が目立つ。
- (2) 果実の被害への影響は顕著な場合と比較的軽度な場合がある。影響が顕著な場合、糖度は無毒樹にくらべて屈折糖度計示度で3～4度低く、食味や着色が劣り、成熟も7～10日遅れがちとなる。

5 ウィルスの特徴および伝搬方法

- (1) 本病に関与するウィルスとして、ひも状粒子ブドウ葉巻隨伴ウィルス (*Grapevine leafroll-associated virus*) 1～4、7 が報告され、これらのうち GLRaV-1、2、3 が、日本では報告されている。
- (2) 他のウィルス病と同様に接ぎ木伝染し、台木にも潜在感染する場合が多いとされる。
- (3) GLRaV-1、3 はカイガラムシ類での虫媒伝染が知られており、GLRaV-3 は国内でもクワコナカイガラムシによる伝染が確認されている。

6 防除対策

- (1) ウィルス病であり、効果を有する農薬はない。
- (2) 本ウィルスを媒介することが確認されているカイガラムシ類の防除を徹底する。
- (3) 更新時には、無毒化（ウィルスフリー）された苗木を導入する。



図1 採取したサンプル（令和7年11月）
(横浜植物防疫所提供、無断転載禁止)



図2 葉裏側への葉卷症状（平成30年9月）
(愛知県農業総合試験場、無断転載禁止)



図3 葉の紅葉症状（平成30年9月）
(愛知県農業総合試験場、無断転載禁止)

7 引用文献

- (1) 平成28年度新潟県病害虫発生予察情報・特殊報第1号（新潟県病害虫防除所）
- (2) 平成30年度病害虫発生予察特殊報第1号（愛知県）
- (3) 原色 果樹の病害虫診断事典（一般社団法人 農村漁村文化協会）

病害虫発生予察情報・各種情報は、福島県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

問い合わせ先：福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）

TEL：024-958-1709 FAX：024-958-1727 e-mail：yosatsu@pref.fukushima.lg.jp